

7月4日（金） 「平和について考える」～永遠の会の方々をお迎えして～



原爆のもたらした実際の被害



静かに聞いて学ぶ教室の様子



児童代表によるお礼の言葉

本日の平和学習会。講師に被爆体験を語り継ぐ『永遠の会』の辻さんと松本さんをお迎えし、原子爆弾がもたらした被害の実際、自ら大けがを負いながらも粉骨砕身の精神で復興のために努力した永井隆さんの生きざま、浦上天主堂の「アンジェラスの鐘」についてなど、心を打つお話をたくさんしていただきました。

「永遠の会」にはいろいろな意味があると思います。

- ・被爆体験を永遠に語り継ぐという意志
- ・平和な世の中が永遠に続くことを願う気持ち
- ・平和な世の中を築くには、世界の人々の永久的な努力が不可欠だということ

人はこれまで平和を築くためにたゆまざる努力も重ねてきましたが、反面、戦争という最大の罪を繰り返してきたことも事実です。だからこそ、小浦さんのお礼の言葉にもあったように、平和を築くために、まずは「身近にいる人を大切にする」ことから始めていきたいと思います。

本日ご来校いただいた永遠の会の辻さん、松本さん、本日は誠にありがとうございました。